

ふるさとのまごころ発信

オオサンショウウオが
おでむがえ



まごころのこもった特産品や、山の幸をつかったレストラン。
ここから、院内のホットな情報を発信します。

日本の生息地の南限として、院内町に生息するオオサンショウウオ。国の特別天然記念物にも指定され、『生きた化石』と呼ばれています。つぶらな瞳がかわいいオオサンショウウオが、このステーションで特別公開されています。

■道の駅いんない

院内めぐりは、まずここで情報収集を。石橋の解説やパンフレットなど、院内の豊富な情報を発信しています。また、おみやげに最適な朝採りの新鮮な野菜や果物をはじめ、院内の特産ゆずをつかった品々など、真心のこもった逸品を満載。レストラン柚子の里では、地鶏や猪肉、山菜など、豊かな山の幸をふんだんにつけたメニューが人気です。

道の駅いんない

TEL・FAX(0978)42-5539

営業時間/9時から18時
定休日/なし、大晦日と元日2日のみ休み
(柚子の里 第2・4月曜日)
宇佐市院内町副1381の2

日本一の石橋のまち・院内

地勢と水系と匠たち

その数75基。宇佐市院内町は日本一を誇る石橋のまちです。これらの石橋は、江戸時代の終わりから昭和のはじめにわたって架けられました。

院内町に石造アーチ橋が多いのは、いくつもの深い谷に集落が点在するという地形上の理由と、川が急流で、木橋では流されてしまうため石橋が求められたという背景があります。もともと院内では谷あいの段々畑を区切る石垣や水路をつくるため、石工の技術が男たちに必要とされていました。名棟梁・松田新之助に代表される優れた院内の「匠の技」が、「日本一の石橋のまち」をつくった大きな力となったわけです。

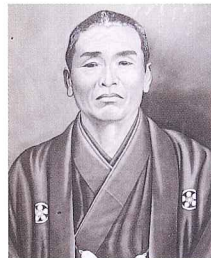
ふだんは足元であってなかなか気づかない石橋。そのドラマは、ただ橋を渡っているだけでは見えないでしょう。視点を換え、たもとからじっくりと見上げたとき、石橋はわたしたちに語りかけてくれます。…石橋のアーチは、人と人をつなぐふれあいのアーチであるということに…

名工・松田新之助

●石橋づくりにかけたロマン

鳥居橋や荒瀬橋など、院内を代表する石橋を10基以上も架けた名棟梁・松田新之助(1867~1947)彼は父の土木工事を手伝うため関西でアーチ設計の技術を学び、帰郷した後は、院内の地形にあった石造アーチ橋の架設に情熱を注ぎました。

1924(大正13)年、架設中の富士見橋が、突然大きな音とともに崩落。しかし新之助は私財を売り払い、名工としての意地と信念で再び架設、翌年には見事に富士見橋を完成させました。石橋づくりに生命を燃やした「石工の魂」を伝えるエピソードは、今も私たちの胸をうってやみません。



●宇佐市内その他の石橋

①とくしん橋 TOKUSIN-BASHI (県指定有形文化財)

所在地:宇佐市大字山本 架設年:延享2年(1745年)
鷹栖観音堂の下流で駅館川に合流する社ヶ谷川に架かる桁橋。県内最古の石橋と考えられており、名前は橋を架けた僧の名からつけたと推測される。



②今井橋 IMAI-BASHI (市指定有形文化財)

所在地:宇佐市安心院町大 架設年:大正12年(1923年)
今井地区の酒造業佐藤氏の計画により架設された石橋。院内町の石橋とは対照的な短い橋脚が特徴の均整の取れた美しい3連アーチ橋である。



(石橋シンボルマーク)

大分県宇佐市院内町

日本一の石橋のまち・院内へは

- JR日豊本線宇佐駅または柳ヶ浦駅より車で25分
- 宇佐別府道路院内インターチェンジ出る
- 大分自動車道玖珠インターチェンジより車で30分(国道387号線経由)

お問い合わせ/宇佐市観光協会 院内支部
大分県宇佐市院内町副1381の1
TEL・FAX:(0978)42-6040
印刷/佐伯印刷株式会社
発行/宇佐市